

2025（令和7）年9月18日
科学技術振興機構（JST）

戦略的創造研究推進事業における 2025年度新規研究課題の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、戦略的創造研究推進事業（「CREST」、「さきがけ」および「ACT-X」）の2025年度研究提案募集における新規採択研究代表者・研究者および研究課題を決定しました。

本事業は、社会・経済の変革をもたらす科学技術・イノベーションを生み出す、新たな科学知識に基づく革新的技術のシーズを創出することを目的とした基礎研究を推進します。国（文部科学省）が戦略目標を設定し、その下に推進すべき研究領域と研究領域の責任者である研究総括（プログラムオフィサー）をJSTが定めます。研究提案は研究領域ごとに募集し、研究総括が領域アドバイザーらの協力を得ながら選考します。「CREST」では選定された研究代表者が研究チームを編成して、「さきがけ」では研究者が個人で研究を推進します。「ACT-X」は、優れた若手研究者を見いだして育成するプログラムで、研究総括および領域アドバイザーの助言、指導の下、若手研究者が個人で研究を推進します。

2025年度研究提案募集として、「CREST」の12研究領域、「さきがけ」の15研究領域、および「ACT-X」の5研究領域において募集した結果、産学官各界の研究者から「CREST」は826件、「さきがけ」は1734件、「ACT-X」は745件の応募がありました（別紙）。

募集締め切り後、書類選考と面接選考（事前評価）を実施し、「CREST」は60件、「さきがけ」は168件、「ACT-X」は110件の研究課題とその研究代表者・研究者を採択しました。

詳細は以下ウェブサイトを参照してください。

CREST : <https://www.jst.go.jp/kisoken/crest/>

さきがけ : <https://www.jst.go.jp/kisoken/presto/>

ACT-X : <https://www.jst.go.jp/kisoken/act-x/>

<添付資料>

別紙：2025年度応募数および採択数

参考1：研究総括

参考2：選考の観点

<お問い合わせ先>

<事業に関すること>

科学技術振興機構 戦略研究推進部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町

櫻間 宣行（サクラマ ノリュキ）

E-mail : rp-info@jst.go.jp ※お問い合わせは電子メールでお願いします。

<報道に関すること>

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

Tel : 03-5214-8404 Fax : 03-5214-8432

E-mail : jstkoho@jst.go.jp

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

2025年度 応募数および採択数

<研究領域別>
CREST

発足年度	研究領域	応募数	採択数	採択率
2025年度	ゆらぎの導入・制御による機能性材料の創製	127	6	4.7%
	実環境知能システムを実現する基礎理論と基盤技術の創出	62	5	8.1%
	人とAIの共生・協働社会を実現する学際的システム基盤の創出	79	6	7.6%
	異分野融合による超生体組織の創製と新機能の創出	90	6	6.7%
2024年度	予測・制御のための数理科学的基盤の創出	66	5	7.6%
	光と情報・通信・センシング・材料の融合フロンティア	51	3	5.9%
	材料創製および循環プロセスの革新的融合基盤技術の創出とその学理構築	64	5	7.8%
	革新的な計測・解析技術による生命力の解明	108	5	4.6%
2023年度	量子・古典の異分野融合による共創型フロンティアの開拓	28	5	17.9%
	海洋とCO ₂ の関係性解明から拓く海のポテンシャル	28	4	14.3%
	ナノ物質を用いた半導体デバイス構造の活用基盤技術	40	5	12.5%
	細胞操作	83	5	6.0%
合 計		826	60	7.3%

さきがけ

発足年度	研究領域	応募数	採択数	採択率
2025年度	量子物質	95	10	10.5%
	ゆらぎの理解と制御による材料革新	246	14	5.7%
	実世界知能システムの基盤創出	96	10	10.4%
	人とAIの共生・協働社会を構成する要素研究と基盤技術の創出	103	10	9.7%
	多細胞動態の理解と制御による超生体組織の創出	135	12	8.9%
2024年度	AI・ロボットによる研究開発プロセス革新のための基盤構築と実践活用	64	9	14.1%
	未来を予測し制御するための数理を活用した新しい科学の探索	88	13	14.8%
	光でつなぐ情報と物理の融合分野の開拓	62	10	16.1%
	材料の創製および循環に関する基礎学理の構築と基盤技術の開発	142	12	8.5%
	時空間マルチスケール計測に基づく生物の復元あるいは多様化を実現する機構の解明	316	16	5.1%
2023年度	量子・古典の異分野融合による共創型フロンティアの開拓	64	11	17.2%
	海洋バイオスフィア・気候の相互作用解明と炭素循環操舵	47	9	19.1%
	新原理デバイス創成のためのナノマテリアル	86	11	12.8%
	社会課題を解決する人間中心インタラクションの創出	132	11	8.3%
	計測・解析プロセス革新のための基盤の構築	58	10	17.2%
合 計		1,734	168	9.7%

ACT-X

発足年度	研究領域	応募数	採択数	採択率
2025年度	生体機能の理解とデザイン	263	20	7.6%
2024年度	生命と情報	105	19	18.1%
	AI共生社会を拓くサイバーインフラストラクチャ	63	20	31.7%
2023年度	次世代AIを築く数理・情報科学の革新	174	30	17.2%
	トランススケールな理解で切り拓く革新的マテリアル	140	21	15.0%
合 計		745	110	14.8%

研究総括

参考1

CREST

研究領域	役職	氏名	所属機関・役職
ゆらぎの導入・制御による機能性材料の創製	研究総括	佐々木 高義	物質・材料研究機構 フェロー
実環境知能システムを実現する基礎理論と基盤技術の創出	研究総括	尾形 哲也	早稲田大学 理工学術院 教授/ AIロボット協会 理事長
人とAIの共生・協働社会を実現する学際的システム基盤の創出	研究総括	和泉 潔	東京大学 大学院工学系研究科 教授
異分野融合による超生体組織の創製と新機能の創出	研究総括	秋吉 一成	京都大学 大学院医学研究科 名誉教授・特任教授
予測・制御のための数理科学的基盤の創出	研究総括	小谷 元子	理化学研究所 領域総括 開拓研究所 所長/ 東北大学 理事 (研究国際戦略・展開担当)
光と情報・通信・センシング・材料の融合フロンティア	研究総括	中野 義昭	豊田工業大学 副学長/工学部 教授
材料創製および循環プロセスの革新的融合基盤技術の創出とその学理構築	研究総括	岡部 朋永	東北大学 大学院工学研究科 教授/ 同 グリーン未来創造機構 グリーンクロステック研究センター長
革新的な計測・解析技術による生命力の解明	研究総括	水島 昇	東京大学 大学院医学系研究科 教授
量子・古典の異分野融合による共創型フロンティアの開拓	研究総括	井元 信之	東京大学 特命教授室 特命教授
海洋とCO ₂ の関係性解明から拓く海のポテンシャル	研究総括	伊藤 進一	東京大学 大気海洋研究所 教授
ナノ物質を用いた半導体デバイス構造の活用基盤技術	研究総括	齋藤 理一郎	東北大学 名誉教授
細胞操作	研究総括	宮脇 敦史	理化学研究所 脳神経科学研究センター/ 光子工学研究センター チームディレクター

さきがけ

研究領域	役職	氏名	所属機関・役職
量子物質	研究総括	齊藤 英治	東京大学 大学院工学系研究科 教授
ゆらぎの理解と制御による材料革新	研究総括	常行 真司	東京大学 大学院理学系研究科 教授/理化学研究所 最先端研究プラットフォーム連携事業本部 プログラムディレクター
実世界知能システムの基盤創出	研究総括	原田 達也	東京大学 先端科学技術研究センター 教授
人とAIの共生・協働社会を構成する要素研究と基盤技術の創出	研究総括	山下 直美	京都大学 大学院情報学研究所 教授
多細胞動態の理解と制御による超生体組織の創出	研究総括	永樂 元次	京都大学 医生物学研究所 教授
AI・ロボットによる研究開発プロセス革新のための基盤構築と実践活用	研究総括	竹内 一郎	名古屋大学 大学院工学研究科 教授/ 理化学研究所 革新知能統合研究センター チームディレクター
未来を予測し制御するための数理を活用した新しい科学の探索	研究総括	荒井 迅	東京科学大学 情報理工学院 教授
光でつなぐ情報と物理の融合分野の開拓	研究総括	川西 哲也	早稲田大学 理工学術院 教授
材料の創製および循環に関する基礎学理の構築と基盤技術の開発	研究総括	北川 進	京都大学 高等研究院 特別教授
時空間マルチスケール計測に基づく生物の復元あるいは多様化を実現する機構の解明	研究総括	上村 匡	京都大学 名誉教授
量子・古典の異分野融合による共創型フロンティアの開拓	研究総括	井元 信之	東京大学 特命教授室 特命教授
海洋バイオスフィア・気候の相互作用解明と炭素循環操舵	研究総括	神田 稔太	新潟大学 大学院教育支援機構 特任教授
新原理デバイス創成のためのナノマテリアル	研究総括	岩佐 義宏	理化学研究所 創発物性科学研究センター 副センター長
社会課題を解決する人間中心インタラクションの創出	研究総括	葛岡 英明	東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授
計測・解析プロセス革新のための基盤の構築	研究総括	田中 功	京都大学 総合研究推進本部 特定教授・名誉教授

ACT-X

研究領域	役職	氏名	所属機関・役職
生体機能の理解とデザイン	研究総括	伊川 正人	大阪大学 微生物病研究所 教授
生命と情報	研究総括	杉田 有治	理化学研究所 開拓研究所 主任研究員
AI共生社会を拓くサイバーインフラストラクチャ	研究総括	下條 真司	青森大学 ソフトウェア情報学部 教授
次世代AIを築く数理・情報科学の革新	研究総括	原 隆浩	大阪大学 大学院情報科学研究科 研究科長・教授
トランススケールな理解で切り拓く革新的マテリアル	研究総括	竹内 正之	物質・材料研究機構 高分子・バイオ材料研究センター センター長

(2025年9月18日現在)

選考の観点

<CREST>

- (1) CREST の各研究領域に共通の選考基準は、以下の通りです。
 - a. 目的・趣旨：CREST 及び研究領域の趣旨に合致し、研究領域が目指す成果の創出が期待されること。
 - b. 独創性・優位性：国内外の動向等を踏まえ、提案内容が独創性・優位性を有していること。
 - c. 目標・計画：実施期間内に達成する目標、実施計画及び予算計画が具体的かつ適切であること。
 - d. 実施体制：提案内容の遂行に最適な実施体制を構築していること。
 - e. 遂行能力：提案内容の遂行に必要な活動実績及び責任能力を有していること。
- (2) 上記のほか、研究領域ごとに独自の選考の観点・方針や運営の方針などを設定しました。
- (3) 研究費の「不合理な重複」ないし「過度の集中」に当たるかどうか、選考の要素としました。

<さきがけ>

- (1) さきがけの各研究領域に共通の選考基準は、以下の通りです。
 - a. 目的・趣旨：さきがけ及び研究領域の趣旨に合致し、研究領域が目指す成果の創出が期待されること。
 - b. 独創性・優位性：国内外の動向等を踏まえ、提案内容が独創性・優位性を有していること。
 - c. 目標・計画：実施期間内に達成する目標、実施計画及び予算計画が具体的かつ適切であること。
 - d. 遂行能力：提案内容の遂行に必要な活動実績及び責任能力を有していること。
- (2) 上記のほか、研究領域ごとに独自の選考の観点・方針や運営の方針などを設定しました。
- (3) 研究費の「不合理な重複」ないし「過度の集中」に当たるかどうか、選考の要素としました。

<ACT-X>

- (1) ACT-X の各研究領域に共通の選考基準は、以下の通りです。
 - a. 目的・趣旨：ACT-X 及び研究領域の趣旨に合致し、研究領域が目指す成果の創出が期待されること。
 - b. 独創性・優位性：国内外の動向等を踏まえ、提案内容が独創性・優位性を有していること。
 - c. 目標・計画：実施期間内に達成する目標、実施計画及び予算計画が具体的かつ適切であること。
 - d. 遂行能力：提案内容の遂行に必要な活動実績及び責任能力を有していること。
- (2) 上記のほか、研究領域ごとに独自の選考の観点・方針や運営の方針などを設定しました。
- (3) 研究費の「不合理な重複」ないし「過度の集中」に当たるかどうか、選考の要素としました。

以上